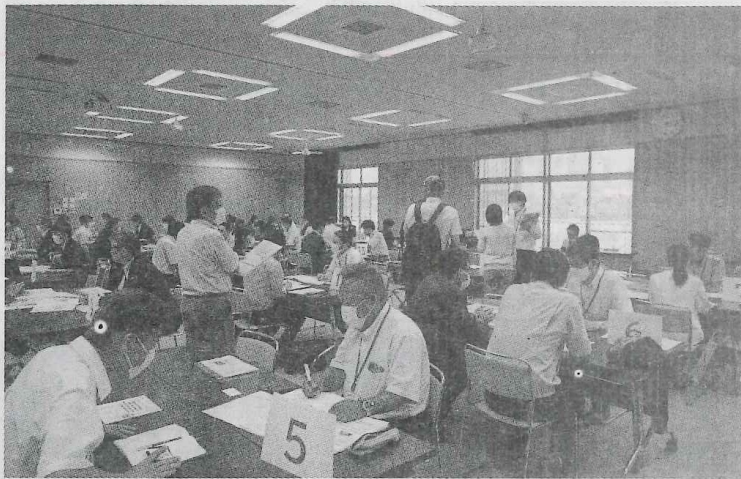


地域企業・大学・支援機関などが連携

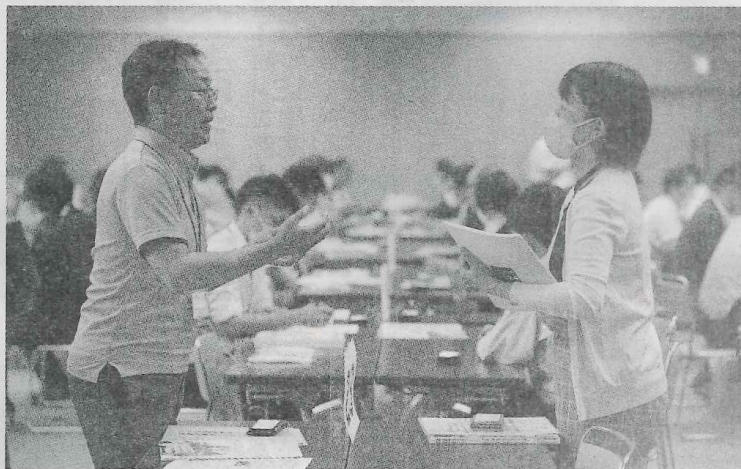
「大学と長野県企業との情報交換会」

信大繊維学部総合研究棟に70人参加

地域企業の人材確保へ ― 東信州次世代産業振



大学側と企業側の担当者が一堂に会し、情報交換を行った



相手方の席を回って情報交換する担当者ら

上田市内

興協議会は21日、「大学と長野県企業との情報交換in長野」を上田市の信州大学繊維学部内総合研究棟で開き、関東・北陸・首都圏を中心とした大学の就職担当者、県内企業の採用担当者ら約70

人が参加した。2012年から始まり、今回は15回目。これまでの参加大学は延べ581校、企業は延べ759社で、今回は新たな試みとして希望者の企業見学(翌日)も行った。

この日は主催者を代表し、同協議会発起人のAREC・岡田基幸センター長が「昨今は理科系が人気のようだが、(学生らは)理数系の勉強をしたといつても5、6年。人生100年時代なので、企業によっては理科系・工業系でなくても育てていく自信が十分にある」とし、「参加いただいた大学は長野県企業とご縁をつなぎたい大学。企業の方はぜひ理科系大学や文化系大学など関係なく、色々な大学とご交流いただけ

れば」とあいさつ。参加者らは約90分にわたって大学側・企業側が相手方の席を回り、企業情報や2025年卒の学生の県内出身者数など、双方の情報交換をしつつネットワーク構築に向けて交流していた。

なお県内企業では近年、新規採用者(高卒・大卒)の採用難が続いている。これは少子化だけでなく、主に首都圏の大手企業による大量採用やコロナ禍で県内企業と大都市圏大学とのネットワークが分断し、学生にとって地方への就職が遠い存在になりつつあることなどが背景にあるという。

今回の情報交換会は、大学と県内企業が相互にネットワーク構築などを望んでいることから、大学の就職担当者と県内企

業の人事担当者が一堂に会し、情報交換を行う場として設けられた。